

# 3月も約40年ぶりの高水準となった米CPI

## ポイント① CPI、3月も約40年ぶりの高水準

4月12日に発表された3月の米CPI（消費者物価指数）は前年同月比で8.5%の上昇と、1981年終盤以来となる、約40年ぶりの高水準を記録しました。また前月比でも1.2%の上昇と、2月の同0.8%を上回り、ロシアによるウクライナ侵攻を受けた原油価格などの高騰が、足元の物価上昇に拍車をかけた形となりました。ただ、変動の大きいエネルギーと食品を除くコアCPIでは、前年同月比で6.5%の上昇と、12カ月連続でFRB（米連邦準備制度理事会）が物価安定の目標に掲げる2%の水準を上回ったものの、前月比では0.3%の上昇となり、2月の同0.5%を下回る結果となりました。

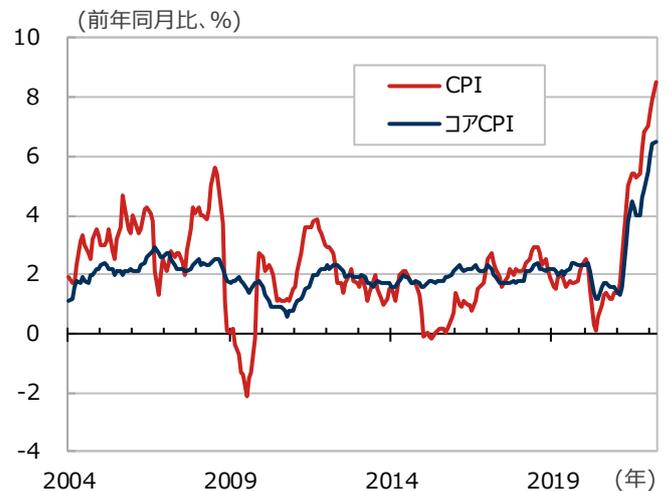
## ポイント② ガソリン価格がCPI上昇をけん引

項目別では、前月比で18.3%の上昇となったガソリン価格を筆頭に、家庭用電気料金、食品など、依然として多くの項目で価格の上昇が続いています。一方でコアCPIの減速の背景には、中古車価格が前月比で3.8%の低下となったことがあるようで、その他の衣類や医薬品、新車などの財の価格も、伸びが減速しました。ただ中古車は、現在も在庫のひっ迫が続いているほか、ウクライナ情勢に伴うエネルギーや食品価格の高騰は、まだ顕在化し始めたばかりであり、今後もインフレの高進が続くという見方が強く、コアCPIの減速がFRBによる金融引き締め策の方向性を変えるものではないと見ています。

## ポイント③ CPI発表後、米10年債利回りは低下

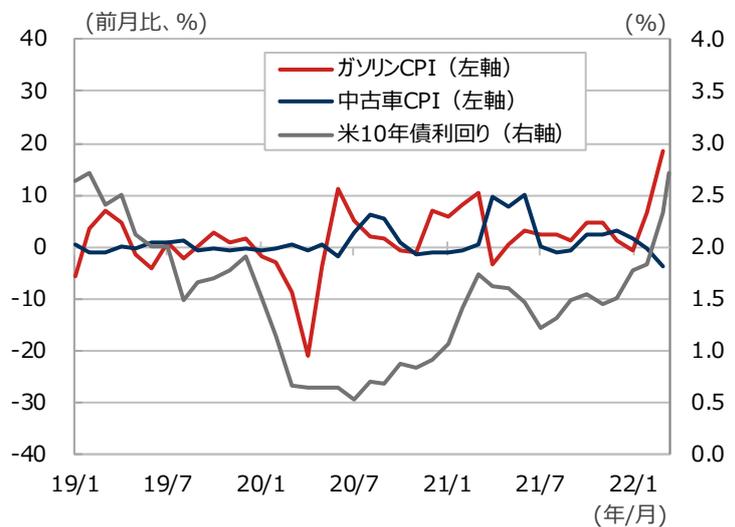
市場ではコアCPIの減速を受けて、一部で「過度なインフレ懸念が後退した」との見方が広がり、その後FRB高官からタカ派的な発言があったものの、米10年債利回りは、前日比で0.06%低下しました。

米消費者物価指数の推移



期間：2004年1月～2022年3月、月次  
 (注) コアCPIはエネルギー、食品除く  
 (出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米消費者物価指数（ガソリン・中古車）と米10年債利回りの推移



期間：2019年1月～2022年4月（ガソリンCPIと中古車CPIは3月まで、米10年債利回りは4月12日まで）、月次  
 (出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

**重要  
イベント**

- 4月14日 米小売売上高（3月）、米ミシガン大学消費者マインド指数（4月速報）
- 4月15日 米鉱工業生産指数（3月）